

自然再生全国会議参加報告

とき : 平成29年11月1日、2日
ところ : 宮城県栗原市、登米市

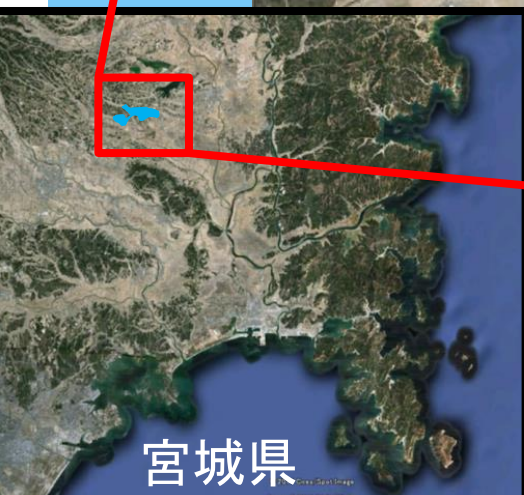
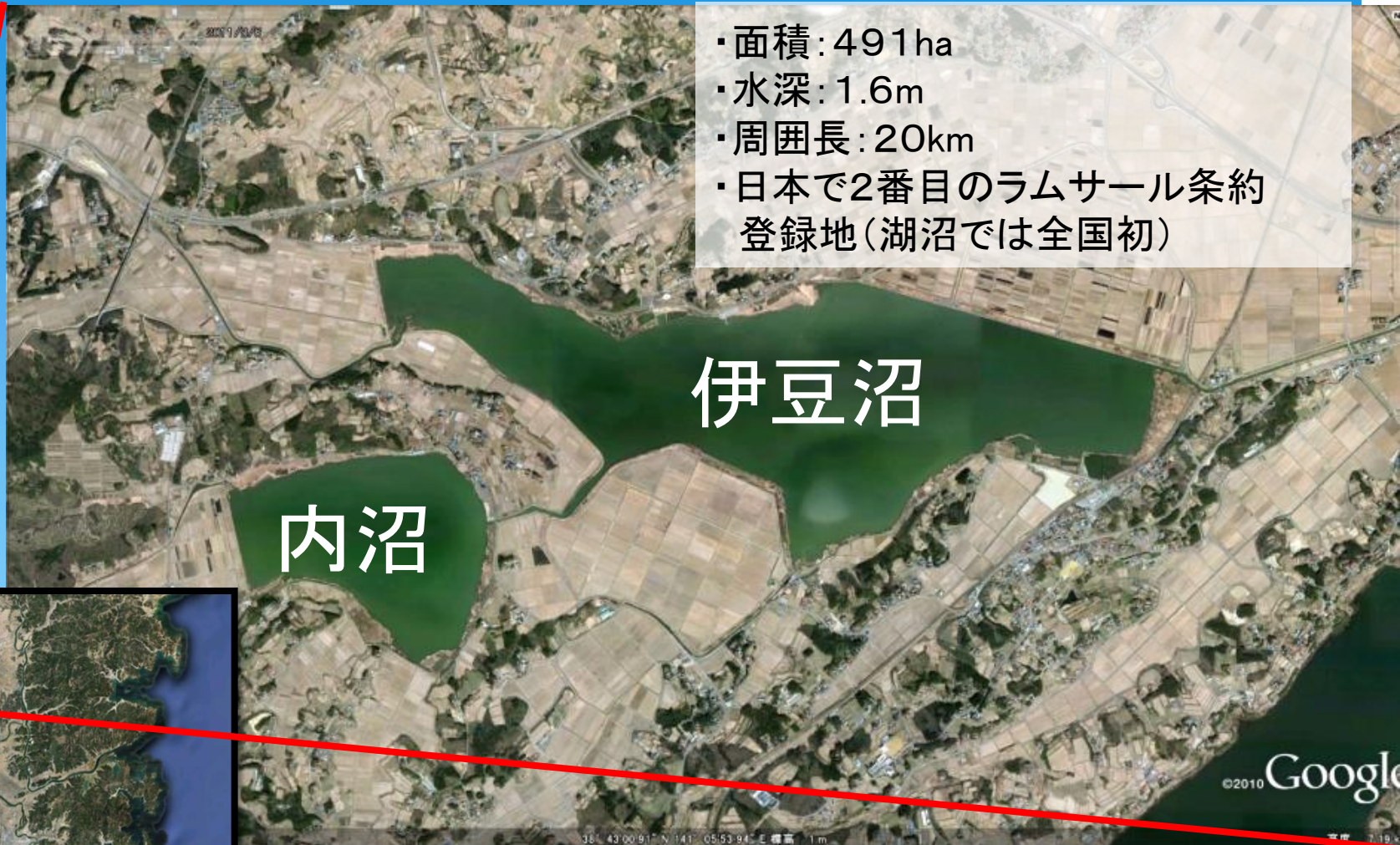
全国会議について

- 自然再生協議会等の構成員がその取組状況について情報交換を実施し、参考となる事例や課題への対応策等の情報共有を図る
- 自然再生事業地の現地視察等を行うことで、さらなる自然再生の推進を図っていく

→ 昨年は各地の協議会や関係省庁から
28団体、計81名が参加

開催地(伊豆沼・内沼)紹介

- ・面積: 491ha
- ・水深: 1.6m
- ・周囲長: 20km
- ・日本で2番目のラムサール条約登録地(湖沼では全国初)



©2010 Google

36.430091° N 141.055394° E 標高 1m

～現地の環境問題の例～

ハスの過繁殖

- ・水質悪化・他の水生植物の減少etc

外来魚(オオクチバス)の増殖

- ・沼の漁獲量の減少
- ・希少在来種の捕食etc



～取り組み手法①～

水生植物の増殖法

約15種を復元!!

- ①埋土種子からの植生復元→泥に埋まっている種子を発見し、
発芽可能な条件(水槽等)で発芽させる
- ②ハス対策→刈り払いなどで適正管理
- ③発芽した植物の育成・増殖 →発芽した植物を水槽などで育成し、湖内へ
移殖



自動ハス刈りロボットボート



～取り組み手法②～

在来魚類の復元 (バスの繁殖抑制)

ボランティア団体を
結成し、共に活動

人工産卵床
対象: 卵、巣

稚魚すくい
対象: 稚魚
の群れ

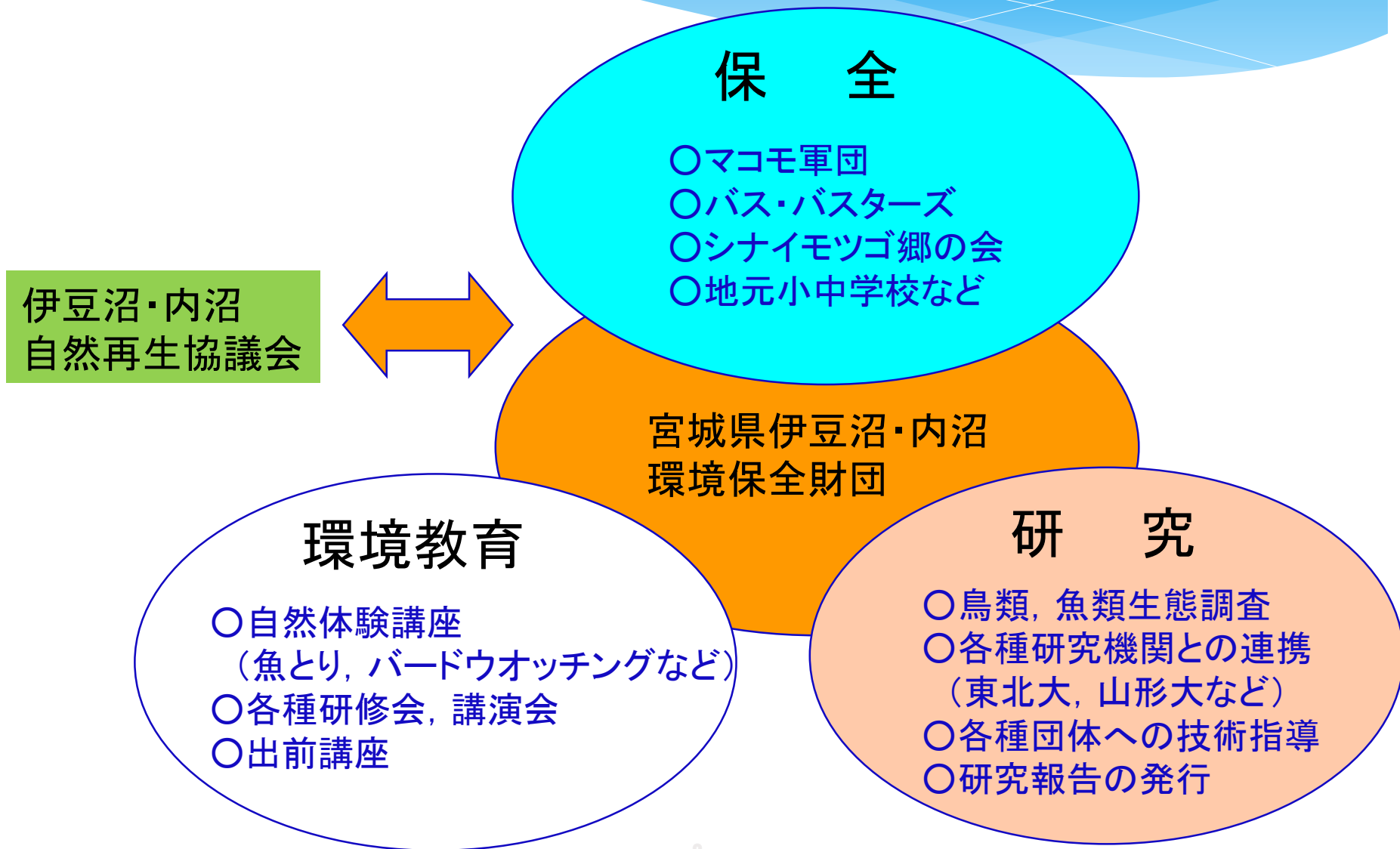
成果

- ・漁獲量回復
- ・希少魚類の個体数増加

電気ショッカー
ボートなど
対象: 成魚



伊豆沼・内沼の保全体制



～全国会議で出された意見(1)～

- ・毎年同じような質問と意見が出ていて、お互いの情報共有ができていない
- ・全国会議を行うだけでは意味がないので、専門種別に分けた会議も開催すべき。



～全国会議で出された意見(2)～

- ・自然が再生されることでもたらされる恩恵を企業やマスコミも含めて取り組んでもらえるように。
- ・公共事業も大切だが、民間活動が活発になるような支援をしてほしい。
- ・協議会によっては運営資金を得るための方法として「ふるさと納税」の仕組みを用いる。